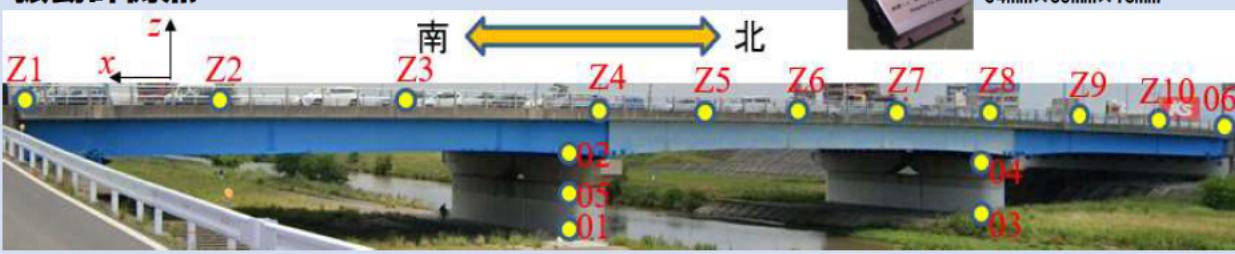
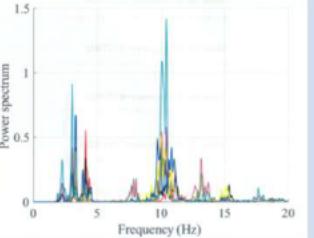


技術名	地震後各種構造物の構造健全性リアルタイム診断法			
シーズ提供者	合同会社建築構造技術研究所			
技術概要	土木構造物に設置した振動計により、常時の振動特性を把握し、地震時及びその影響後の振動特性の変化を確認することで、低コスト、高精度かつリアルタイムで、構造物の損傷度合および損傷箇所を推定する技術。			
試行状況	<p>振動計側点</p>  <p>加速度計外観 64mm×69mm×16mm</p>  <p>加速度計設置状況</p>  <p>振動数計測結果</p> 			
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 比較的安価な加速度計の短期計測により、橋梁の固有振動数および振動モードを同定できる。 耐震性評価、リアルタイム性の維持にはさらなる研究が必要。 			
経済性	<p><短期（日単位）計測の場合> 設備費のみ 50万円程度</p> <p><長期（週単位）計測の場合> 配線工事などの費用が発生。</p> <ul style="list-style-type: none"> データ分析などの技術料が必要。 			
安全性	<ul style="list-style-type: none"> 加速度計が軽量で、構造体に固定で設置するため、落下などの危険性が低い。 橋脚、橋桁下部、歩道脇などの車・人が通らないところに設置するため、被害リスクが低い。 			
耐久性	<ul style="list-style-type: none"> 長期計測の場合は耐久性をもつ加速度計が望ましい。（一方向10万円程度の加速度計で、約10年間の継続計測可能） 			
作業性	<ul style="list-style-type: none"> 設置場所により、高所作業車や橋梁点検車が必要となる。 			
汎用性	<ul style="list-style-type: none"> 連続桁橋に適応できることが確認できた。 			
評価	試行現場検証により、公募ニーズの達成のための土木構造物の振動計測、振動特性が抽出されることを確認した。			